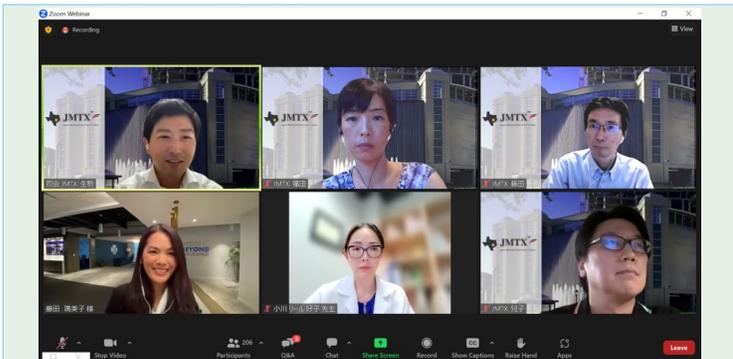


第一回JMTXウェビナー： 米国の医療保険制度と かかりつけ医について 報告レポート



アメリカ在住の日本人にアメリカの医療情報を提供することで、アメリカ在住の日本人が医療システムの違いを乗り越えアメリカでも必要な医療を受けられるようになることを主な趣旨とし、商工会を始めとする皆様のご支援を受け、ヒューストンの日本人臨床医が中心となり、日本テキサス医学振興会(JMTX)を2022年10月末に設立致しました。第一回JMTXウェビナーを5/20(土)に行いましたので、報告させていただきます。

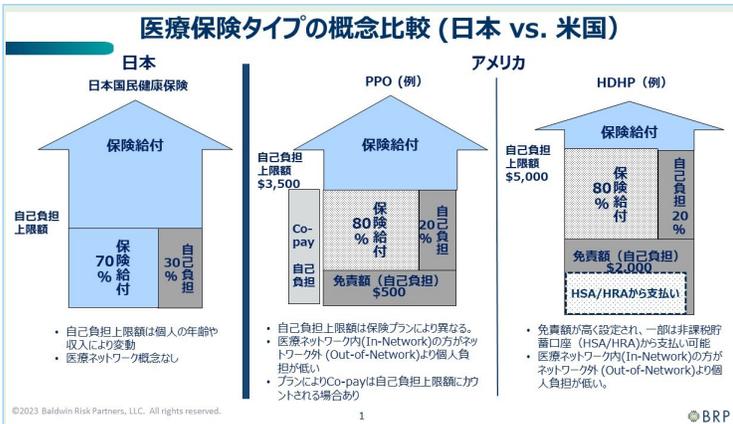


▲第一回JMTXウェビナーQ&Aセッション
上段：左から、生駒成彦医師(司会進行、JMTX)、福田由梨子医師(JMTX)、藤田淳医師(JMTX)、下段：左から、藤田満美子氏(Baldwin Risk Partners)、小川リール好子医師(Center for Allergy and Asthma of Texas)、兒子真之医師(JMTX)

今回は、アメリカで生活していく上で知っておかなければならないアメリカの医療保険制度とかかりつけ医をテーマに取り上げ、Baldwin Risk PartnersのGlobal Japanese Practice(日系部門)で医療保険を担当されている藤田満美子氏と、メモリアルシティとウッドランズでアレルギー科、内科で開業されている小川リール好子医師に講演して頂きました。

日本では、国民皆保険制度のもと、医療費の自己負担額をそこまで心配することなく医療機関を比較的の不便なく受診できてきた我々にとって、予約なしでは受診できないクリニックがほとんどである。保険により受診できるクリニックが制限されてしまう、受診後法外の医療費を請求されたケースもよく耳にするなどアメリカの医療システムは理解しがたいものです。何故こうなってしまうのかを一言でまとめると、医療は福祉の一環であると考えがちな日本に対し、アメリカでは医療の大部分はあくまでもビジネスの一分野であると捉えられ、医療が市場原理で行われてきたことに起因します。賛否はあっても、アメリカで生活していくにはアメリカの医療を利用していかなければならないため、第一回ウェビナーにこの大事なテーマを取り上げました。それぞれの大事なポイントは以下の通りです。

米国の医療保険制度



▲藤田満美子氏による講演「米国の医療保険制度について」のスライドより抜粋

- アメリカでは民間医療保険加入者は66%、メディケイド加入者は18.9%、メディケア加入者は18.4%、無保険者は8.3%(重複もあるので合計100%を超えています)

- 通常の医療保険では歯科や眼科はカバーされないので、別途に歯科・眼科保険への加入が必要
- 民間保険のタイプには、主にPPO (Preferred Provider Organization)、HDHP (High Deductible Health Plan)、HMO (Health Maintenance Organization)があり、受診できる医療機関の制限、免責額、保険料などが異なる
- アメリカの保険でカバーされる健康診断と日本の人間ドックの内容が異なるので注意が必要
- 妊娠、出産に関しては、開業医の産婦人科医が主治医でも分娩は病院で行う、正常分娩も保険でカバーされるなど日米で異なる点が多い

かかりつけ医

かかりつけ医PCPは自由選択？必要不可欠？

- ◆ 小児や高齢の方、既往歴が複雑な方は強くお勧めします。
- ◆ ご懐妊されている方、妊娠を予定されている方はすぐ産婦人科医(Ob/Gyn)へ。婦人科のみ取り扱うGynecologist(出産は扱わない)も多いので、確認しましょう。
- ◆ 必要不可欠かどうかは、お持ちの保険の種類によります
PPO? HMO? EPO?
HMO: かかりつけ医PCPをあらかじめ選んで登録しておかなくてはいけないプラン。その医師を通して専門医にかからなくてはなりません このプロセスを省いたり、また更新し損ねて専門医のサービスを受けると、保険会社が請求を拒否し、患者さんが実費を負担することにもなりかねません。
PPO: かかりつけ医がいなくても専門医を受診できる。

▲小川リール好子医師による講演「アメリカ医療におけるかかりつけ医PCPの意義」のスライドより抜粋

- かかりつけ医とは、健康に関して相談できる一番身近な医師で、必要に応じて専門医や専門医療機関に紹介してくれる道しるべ的な存在
- 年に一度の健診(症状がなくても受診可)、高血圧などの慢性疾患の管理、体調不良時の受診、専門医への紹介などがかかりつけ医の役割に含まれる
- 一般内科、家庭医療科、小児科、産婦人科の医師がかかりつけ医になれるが、ナースプラクティショナーやフィジシャンアシスタントもかかりつけ医になることが可能
- かかりつけ医を決めなくてもよい保険もあるが、小児、高齢者、慢性疾患がある方はかかりつけ医を決めておいた方がよい
- 保険会社のIn Network Physicians/ Providersのリストや、口コミやウェブでの評判をもとにかかりつけ医を自分で選ぶことができる
- かかりつけ医への受診は予約が必要な場合がほとんどで、胸が急激に痛いなどの緊急時はEmergency RoomやUrgent Careに行かなければならない

ウェビナーの録画とスライド、Q&AはJMTXのホームページに掲載しております。また、同ホームページの医療情報欄にも、より詳しい医療情報が掲載されている医療ハンドブックやお勧めクリニックリスト、ヒューストンと近郊で日本語が通じる医療従事者のリストが掲載されていますので、さらに詳細を知りたい方は是非ご覧下さい。

ウェビナー参加申込者の事前アンケートによれば、居住地(ヒューストン在住:45.6%、ヒューストン以外のテキサス州の都市:32.4%、テキサス州以外の州:14.3%)、在米期間(1年未満:22.8%、1-3年間:24.5%、3-10年間:21%、10年以上:30.4%)、職業(日本企業からの駐在とその家族:47.8%、米国現地就職とその家族:35.4%、無職:4.3%、留学とその家族:3.5%)と色々な背景の方が関心を持って下さり、当日も220名以上の方がほぼ途中退出されることなく参加され、ヒューストンだけでなく全米中に在住している日本人が在米期間に関わらず正確な医療情報を必要としていること、ウェビナーだからこそヒューストン以外に住んでいらっしゃる方にもお届けできることを再認識致しました。今後も皆様に役立つウェビナーを年に3回程度のペースで開催していきたいと思っております。次回は、9月に第二回JMTXウェビナーを開催する予定ですので、是非ご参加ください。(JMTX代表:福田由梨子(ペイラー医科大学))

免責事項: JMTXウェビナー及びこの報告レポートは情報提供が目的ですので、これらを理由に専門家の医学的な助言を軽視したり助言の入手を遅らせたりすることがないようにご注意ください。担当者は資料作成にはできる限り正確に記載するよう努めていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。これらの内容に関連して、不利益を被る事態が生じたとしても、講演者及び日本テキサス医学振興会関係者は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。なお、これらは個人の見解であり各関係者が所属する組織の見解ではありません。